

# 今こそ、若者を鍛え、 若者を活かす国に。

経営者の皆さまへ。

新型コロナウイルスが社会や経済に与えた影響は深刻です。いずれウイルスの脅威は去っても、大きく変化した人々の消費行動やライフスタイル、働き方はもう元には戻りません。「アフターコロナ」の新しいパラダイムに適応できなければ、企業が生き残ることは困難だといえます。

そのとき、鍵を握るのは20代の若者です。インターネットに常時接続された世界に生まれ、スマホを中心としたデジタルデバイスに親しみ、SNSや動画コンテンツによる情報の受発信にも長けている。真のデジタルネイティブとして、DX時代における企業の在り方に、新たな発想をもたらす存在だからです。

しかし、単に若い人材を頼ればいい、という話ではありません。彼らがチカラを最大限発揮し、活躍できるよう育てる責任が、企業にはあります。

ところがこの国では近年、「ワーク・ライフ・バランス」の掛け声のもと、労働時間の削減ばかりが注目されるようになりました。少子高齢化・人口減少社会に突入し、日本経済の右肩下がりが予測されて久しいにもかかわらず、です。

「もっと休もう」「早く帰ろう」と皆で呼び掛けるこの「やさしさ競争」の中で、はたして人は育つでしょうか。企業は生き残っていくのでしょうか。やさしさだけでなく、厳しく鍛えることもまた、必要なのではないでしょうか。

鍛えるとは、大声で叱ることでも、長時間労働を強いることでもありません。20代という若さに期待を込めて、少し高い要望を出し続けること。チャレンジングな仕事を与えること。それによって、自分の頭で考え、自ら行動し、革新を生み出す若者へと成長していきます。

エン人材教育財団は、社会課題の解決に挑む学生や若手社員の育成と、そのような環境づくりに取り組む企業の支援を行なってきました。いま、コロナ禍を転じて令和を飛躍の時代にできるかどうか、まさに瀬戸際です。

私たちは皆さまと一緒に、この国の未来をつくっていきたい。未来を担う若い人材とともに育てていきたい、と決意を新たにしています。



私たちエン人材教育財団は、「仕事を通じて社会課題の解決に挑む学生や若手社会人の育成」および、そのような環境づくりに取り組む企業の支援を行なっています。

## 『第1回 CareerSelectAbility®賞』受賞企業発表！

私たちが提唱する『CareerSelectAbility®(キャリア自己選択力®)』は、「Career」「Select」「Ability」を掛け合わせた造語です。「どんな環境に置かれても活躍できる力」を示しています。

『CareerSelectAbility®賞』は、本業での主觀正義性\*の発揮と収益性の両立を基本とし、「どこでも通用する人材を、20代のうちから育成する企業」を表彰します。記念すべき第1回では、数あるエントリーの中から以下の4社が受賞しました。

\*主觀正義性…まだ社会的には問題とされていない事象に対し、自社なりの問題意識を持ち、企業が一丸となってその想いをかたちにしようとしていること。

Career  
SelectAbility  
AWARD2020

Oisix ra daichi

SHISEIDO

Benesse

YKK

オイシックス・ラ・大地 株式会社  
若手を育てる「ストレッチアサインメント」と  
透明な評価制度。その考え方と実践。

株式会社 資生堂  
大手グローバル企業の組織変革。  
イノベーションが起こる組織づくり。

株式会社 ベネッセスタイルケア  
実践知の言語化とプロフェッショナル育成。  
日本の介護・保育職の地位向上に挑戦。

YKK 株式会社 ファスニング事業本部  
若手の自律的成長を促す方法。  
老舗BtoBメーカーの人材育成。

賞の詳細はこちら



<https://en-hec.or.jp/award2020.html>

※五十音順

選考委員

一般財団法人 エン人材教育財団 理事長 越智通勝

一橋大学ビジネススクール 国際企業戦略専攻 客員教授 名和高司

コモンズ投信株式会社 取締役会長 淀澤健

シンクタンク・ソフィア・ベンク代表 藤沢久美